

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
溝口大助			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-120807-0	13人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

社会調査実習に参加した学生全員が、一人で苦悶しつつ調査計画をたて、熱心に調査地である神奈川県いちょう団地に出かけて、脇目もふらずにインフォーマントを探して調査を行った。また、東京の代々木上原や大塚のモスクに行き、アルジェリア人、マリ人、チュニジア人、セネガル人、エジプト人、トルコ人をはじめ、多くの滞日ムスリムの現実にも触れながら、学生は、滞日外国人の現状を知った。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

滞日外国人研究 - 「多文化共生」を生きる滞日外国人の意識調査

2. 調査の内容/概要：

滞日外国人の社会問題を対象とし、より具体的には、滞日外国人コミュニティを訪問し、質的調査方法に基づき聞き取り調査を行なった。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

神奈川県いちょう団地における滞日外国人コミュニティを対象として、彼らの日常生活の現実に迫ることを目的とした。

4. 主な調査項目：

多文化共生、移民・マイノリティ研究、移民労働政策、外国人労働者の受け入れ、滞日外国人の子供の文化適応、包摂と排除、不就業問題。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査)の方法：

神奈川県いちょう団地に通い、データを収集した。(1)はじめに社会学や人類学において展開された質的調査の方法論を集中的に習得し、(2)調査実習の中盤では現地に入って調査を実施し、(3)最後に文献研究と平行して、調査実習報告の執筆を行なった。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査員の数は、13名である。調査研究の時期と調査地の詳細は以下のようである。
2012年10月 神奈川実習、本学の学生による調査、調査員4名(本学、他校)。
2012年11月 神奈川実習、本学の学生による調査、調査員4名(本学、他校)。
2012年12月 神奈川実習、本学の学生による調査、調査員4名(本学、他校)。
2013年1月 神奈川実習、本学の学生による調査、調査員4名(本学、他校)。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入)：

調査員全員が、インフォーマントから集中的に聞き取った。調査過程では失敗もあったが、最終的には滞日外国人の現実を描くことができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

移民あるいは帰還移民の問題を巡る民族誌や著作を通して世界の様々な民族問題や社会問題を集中的に学習し、現地調査に対する感性と耐性を養った。国際社会学や文化人類学的手法によりデータを分析した。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

労働力として自己を提示し、そのため過去を消し去ろうともがくほかない滞日外国人が、日本にいる自己を「日本人」ではない「何ものか」であろうと申請する存在あることがわかった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2013年度社会調査実習報告書Vol.29 p259-294。2013年3月刊行。